

平成15年度 試験研究成果書

区分	普及	題名	平成16年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤			
〔要約〕平成16年度の病害虫防除基準の改訂に伴い、新規に採用した殺虫剤と殺菌剤及び変更事項の概要を示した。						
キーワード	病害虫防除基準	殺虫剤	殺菌剤	改訂事項	病害虫部 病理昆虫研究室 県北研究所 営農技術研究室	

1 背景とねらい

平成16年度の防除基準作成会議に提案して新たに掲載されることになった内容、新規採用薬剤及び主な変更事項を紹介し、病害虫防除対策の資とする。

2 成果の内容

主な新規採用薬剤及び追加事項は以下のとおり。作物ごとの改訂事項は表1参照。

(1) 水稲

- ア ジノテフラン粉剤：カメムシ類の防除
- イ トリコデルマ・アトロピリデ水和剤：種子消毒（生物由来）
- ウ メトミノストロピン粒剤：7月中旬散布の穂いもち予防粒剤
- エ フサライド水和剤：無人ヘリによる穂いもち防除

(2) 野菜

- ア ベンフラカルブマイクロカプセル：レタスのナモグリバエ
- イ チアメトキサム粒剤：レタスのナモグリバエ
- ウ シアゾファミド水和剤：ピーマン疫病、キャベツ根こぶ病
- エ ジメトモルフ・銅水和剤：ネギべと病

(3) 果樹

- ア ジノテフラン水溶剤：りんごのアブラムシ類、モモシンクイガ
- イ フルアクリピリム水和剤：りんごのハダニ類
- ウ フルアジナム水和剤：リンゴ紫紋羽病
- エ シメコナゾール水和剤：リンゴ黒星病
- オ トリフロキシストロピン水和剤：リンゴ斑点落葉病
- カ シモキサニル・ファモキサドン水和剤：ブドウべと病
- ク シプロジニル・フルジオキシニル水和剤：ブドウ灰色かび病

(4) 花き

- ア クレソキシムメチル水和剤：リンドウ褐斑病

(5) その他

- ア 農薬取締法の改正により新たにグループ化された野菜類、果樹類、花き類等についても掲載した。
- イ 使用基準と効果適用表を同じ表に記載し、使用方法、使用時期、使用回数、稀釈倍数・使用量を載せ、本欄には農薬の商品名と使用時期及び適用病害虫を記載した。

3 成果活用上の留意事項

改訂項目をもとに、地域の発生病害虫を吟味し、防除計画の際の参考にする。

4 成果の活用方法

(1) 適用地帯または対象者等

- ア 適用地帯：県下全域
- イ 対象者：生産者および普及センター等指導者

(2) 期待する活用効果

新規薬剤の採用により、主要病害虫の防除の効率化が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(402) 新農薬の効果検定と防除基準作成 (昭和49年～、予算区分：民間委託)

6 参考文献・資料

7 試験成績の概要

表1 平成16年度病害虫防除基準に採用した主な農薬

農薬名〔商品名〕	対象		使用方法	採用理由及び使用上の留意点
	作物	病害虫名		
ジノテフラン粉剤 〔スタークル粉剤DL、 アルパリン粉剤DL〕	イネ	カメムシ類	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：3kg/10a	カメムシ類に対する効果が高く、収穫前日数が短い。
トリコデルマ・アトロピリデ SKT-1〔エコホープ〕	イネ	もみ枯細菌病、 苗立枯細菌病、 ばか苗病	種子消毒、浸種後催芽前200 倍液浸漬	生物農薬。浸種後催芽前浸漬の採用。
メトミノストロピン粒剤 〔オリブライト1キロ粒剤〕	イネ	いもち病 (穂いもち)	使用時期：7月中旬 使用方法：1kg/10a	新使用法採用。従来剤より効果は持続的。
フサライド水和剤 〔ラブサイドフロアブル〕	イネ	いもち病 (穂いもち)	使用時期：8月上旬～下旬 使用方法：8倍稀釈、 800mL/10a	無人ヘリ使用薬剤としての採用
ベンフラカルブマイクロカプセル剤 〔オンコルマイクロカプセル〕	レタス	ナモグリバエ	使用時期：定植時 使用方法：100倍稀釈、 0.5L/セル	セル苗対象の省力的で安価な散布剤の採用
チアメトキサム粒剤 〔アクタラ粒剤5〕	レタス	ナモグリバエ	使用時期：育苗期後半 使用方法：65～100g/箱	セル苗対象の粒剤。従来剤より安価
シアゾファミド水和剤 〔ランマンフロアブル〕	ピーマン	疫病	使用時期：生育中 使用方法：2000倍稀釈	持続性、耐雨性あり
	キャベツ	根こぶ病	使用時期：定植前日～当日 使用方法：500倍、2L/箱	新使用法(セル施用、灌注処理)の採用
ジメトモルフ・銅水和剤 〔フェスティバルC水和剤〕	ねぎ	べと病	使用時期：生育中 使用方法：1000倍稀釈	べと病専用剤の採用
ジノテフラン水溶剤 〔スタークル顆粒水溶剤、 アルパリン顆粒水溶剤〕	りんご	アブラムシ類 モモシンクイガ	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：2000倍稀釈	カメムシ類にも効果が高い剤の採用
フルアクリピリム水和剤 〔タイタロンフロアブル〕	りんご	ハダニ類	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：2000倍稀釈	ハダニ類に効果が高い剤の採用
フルアジナム水和剤 〔フロンサイドSC〕	りんご	紫紋羽病	使用時期：収穫45日前まで 使用方法：500倍、土壌灌注、 50～100L/樹	感染予防効果が高く、樹勢の劣る樹でも回復する事例が多い剤の採用
シメコナゾール水和剤 〔サンリット水和剤〕	りんご	黒星病	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：2000倍稀釈	適用病害が幅広い。新規EBI剤
トリフロキシストロピン水和剤 〔フリントフロアブル〕	りんご	斑点落葉病	使用時期：収穫前日まで 使用方法：2000倍稀釈	果実病害に対する効果が高く、果面汚れが少ない
シモキサニル・ファモキサドン水和剤 〔ホライズンドライフロアブル〕	ぶどう	べと病	使用時期：収穫21日前まで 使用方法：2500倍稀釈	カーゼートPZ(マンゼブ混合剤)の代替剤として採用
シプロジニル・フルジオキソニル水和剤 〔スイッチ顆粒水和剤〕	ぶどう	晩腐病	使用時期：収穫30日前まで 使用方法：2000倍稀釈	晩腐病に効果の高い剤として採用
クレソキシムメチル水和剤 〔ストロビーフロアブル〕	りんどう	褐斑病	使用時期：発病初期 使用方法：2000倍稀釈	本病に防除効果の高い薬剤、汚れが少ない